

特集

- ・中頓別版コモンズ形成事業について
〈持続可能で誰一人取り残さない中頓別町を
目指して〉

広報

なかとんべ

No.754

2022 10 October



○第43回町民駅伝大会の様子
第43回町民駅伝大会の詳細は、P5「まちの話題」をご覧ください。

小さな^{まち}中頓別の
しあわせをデザインする



中頓別版 commons 形成事業について

〈持続可能で誰一人取り残さない中頓別町を目指して〉



写真：旧松田商店利活用のための利活用「野菜のフリーマーケットの様子」

中頓別町では、平成27年12月

に策定した、中頓別町総合戦略に基づき、地方創生・人口減少対策に係る取り組みを積極的に展開してきており、これまでも中頓別町シェアリングコミュニティ実践事業や働き方改革プロジェクトを通じて、「住民の足の確保」や「地域の担い手不足解消」として、ライドシェアやくらしとしごとの相談窓口、無料職業相談所などに取り組んで来たことを先月号では紹介しました。

中頓別版 commons 形成事業では、小規模自治体の特性を活かし、共助の仕組みを構築していきます。今月号では、中頓別版 commons 形成事業の具体的な取り組みを紹介していきます。

中頓別版 commons 形成事業とは？

①共助の仕組みづくり検討事業、②相談機能整備、③マッチング機能整備などその他カーボンニュートラル普及啓発を推進し、レジリエンスのある社会システムを構築し、人口が減少しても持続可能な中頓別町を目指して

いく取り組みです。

中頓別版 commons 形成事業の取り組みについて

①共助の仕組みづくり検討事業では、町民を対象にインタビューや聞き書き、対話の場の設定などを通じて、幅広く意見の取りまとめを北海道大学の学生と協働して行ったり、中頓別町『共助』の仕組みづくり推進協議会を開催し、議論を進め、プロジェクト推進を図ったりします。

②相談機能整備では、移住定住促進のための情報発信や窓口体制のブラッシュアップ、「くらし」に関連するテーマでの座談会を実施して、「断らない」相談体制や、生活に困難を抱える人を把握する機能づくりを目標に、移住者だけではなく、町内での困りごとを受け止める相談機能を整備していきます。

③マッチング機能整備では、今年から実施している「地域生活サポート事業」を軸に、全世代の町民が暮らした仕事の面で

「支え」「支えられる」全世代型のファミリーサポートとなる仕組みづくりを目標として推進します。さらに「ライドシェア」の継続推進仕事マッチング機能の促進のため「無料職業紹介所」や、「特定地域づくり事業協同組合」、「くらしとしごとの相談窓口」の継続運用を進めます。また、「旧松田商店を活用」するための意見交換、試行実践により、フリースペースやフリーマーケットなど町内の情報交換の場といった将来的には共助の仕組みづくりの拠点化を視野に活用を促進します。

中頓別版 commons 形成事業の今後

各種関係する町民の皆様にご協力いただき、「交通グループ会議」、「支えあいの仕組みづくり会議」、「なかとん「くらし」座談会」、「旧松田商店再生プロジェクトチーム」として部会構成にし、さらに昨年度からスタートした「しごとマッチング機能の促進」（特定地域づくり事業協同組合は、一部連動してそれぞれ、意見交換を適宜開催しながら検討、推進します。

図 1 中頓別町コモンズ形成事業

関係人口を交えたコモンズ形成検討事業

相談機能の整備

- 移住窓口の機能再編
→移住定住促進に向けての情報発信の在り方の検討、町民への取材や撮影などを実施
- 座談会などの開催
→属性、制度によらず相談を受け止める「断らない」相談体制や町内で生活していくうえでの困難を抱えている人を発見する機能作り

マッチング機能の整備

- 全世代型ファミリーサポート事業
→ボランティア、就労マッチングの仕組みづくり
- シェアリングエコノミーの促進
→ライドシェアなどの実践
- しごとマッチングの促進
→無料職業紹介所、特定地域づくり事業協同組合、web サイトの展開、協働労働の展開可能性などの検討
- 遊休施設の利活用促進

支援の出口
地域づくり・参加支援の場の提供

町民 町民 町民 町民 町民 町民

中頓別町『共助』の仕組みづくり推進協議会

ライドシェア交通G会議

なかとんべつライドシェアの取組についての課題の共有、今後のあり方について意見交換を行う。

支え合いの仕組みづくり会議

地域生活サポート事業をより利用しやすい形にするため（将来的には全世代型に普及していくことを目指し）、現状の課題や取組事項について整理する。

なかとん「くらし」座談会

「くらし」に焦点を当て、町民と専門職と一緒に、町の課題や未来について意見交換し、将来的に仕組み化していくことを目指す。

旧松田商店再生PJチーム

旧松田商店の立地特性や土地面積・調理台など設置されている設備を活かし、地域課題を解消する場として利活用するための検討、運用の中心を担う。

しごとマッチング機能の促進

無料職業紹介所や、町内事業者の担い手確保のための特定地域づくり事業協同組合の運営、くらしとしごとの相談窓口の運用などを促進する。

□ コモンズ (Comons) とは？

近代以前(16世紀ごろ～)のイギリスで、住民が自治的に共同牧草地 (comons) を管理してきた制度のことで、北海道大学 宮内泰介教授は、自著の中で、「地域社会が一定のルールのもと、共同で持続的に管理している自然環境、または、その共同管理の仕組みのこと。」としており、また、元沖縄国際大学 多辺田政弘教授は、「地域住民の『共』的管理(自治)による地域空間とその利用関係(社会関係)」と定義しています。中頓別版コモンズ形成事業では、自然環境だけではなく、幅広い意味で用います。

□ レジリエンスとは？

回復力やしなやかさなどと訳され、困難な課題などに遭遇してもすぐに立ち直る力のことです。



ロングトレイルの実現可能性に向けて 天北線軌道跡を活用したロングトレイルシンポジウム

8月26日、27日に中頓別町内で、「天北線軌道跡を活用した

ロングトレイルの実現可能性に向けて」と題して、シンポジウムと試歩会が開催されました。北海道大学観光学高等研究センター木村宏教授や美幌環境物産協会信太真人事務局長が講師として招かれました。

試歩会では、敏音知地区から松音知地区のおよそ4kmを実際に



歩き、歴史や景色を確かめていました。

シンポジウムでは、「美幌地区三町広域観光協議会屈斜路カデル外輪山トレイルの取組について」と題して行われ、地域住民の方などから、理解を得られるようにモニターツアーなどを実施していることが話されました。今後は、維持・管理など課題があるとも話されました。



基本的人権を学ぶ 人権教室の開催

8月29日、30日に中頓別小学校で人権教室が開催されました。

「いっちゃん ごめんね」や「しらんぷり」など紙芝居やDVDを通じて、中頓別町人権擁護委員から話しを受けました。井野順子委員からは、基本的人権は、全ての人が生まれながら持つ権利で、安全で安心して生きる権利であることなどと話されました。



木材の利活用を考える 未来のための森の授業

8月30日、中頓別町役場で、未来のため森の授業が行われました。

講師には、(株)sonraku 井筒 耕平 代表取締役が招かれました。当日は、21人が参加され、「小さな村が考えていたこと」と題して、西栗倉村の百年の森林構想についてや北海道と本州との林業の違いなど話されました。





タスキを繋いで 第43回町民駅伝大会

9月4日、中頓別町内で第43回町民駅伝大会が行われました。

11チームが参加し、敏音知コミュニティセンター前から中頓別町役場前まで、第1区から第4区までのおよそ15kmを4人で走り、タスキを繋いで行きました。1番早かったチームは、中野商店で、1時間7分54秒でした。最後には、記念撮影をしました。



旧松田商店利活用 スマホスタンドなど作製

9月23日、旧松田商店で木製スマホスタンド作りと焼き干しヤマメのおいしさ発信が行われました。

当日は、多数の親子が訪れ、思い思いにスマホスタンドを作ったり、焼き干しヤマメのマリネを食べていました。この取り組みは、第8期中頓別町総合計画のワークショップから生まれた体験企画です。



防災意識を向上し、安心で安全な地域に 1日防災学校を開催しました

9月27日、防災意識の向上を目的として、中頓別小学校で、全学年を対象に1日防災学校が行われました。

南宗谷消防組合中頓別支署の職員が解説を行い、1年生は、カルタを用いて災害に対する知識を学びました。2年生は、新聞紙でスリッパを作ったり、3年生から6年生では、ハザードマップの作成や台風に対する知



識を学んだりしていました。

9月28日には、中頓別中学校でも防災学校が開催されました。中学生全員を対象とし、地震が起きた想定で避難訓練を行いました。また、救命の連鎖やAEDの使い方や学びました。より高度な防災知識を学ぶことで、安心、安全な地域となるように防災意識の向上を図っていました。





北海道頓別平野の開墾者榎原民之助翁の生涯 大崎上島町と中頓別町との交流の懸け橋を発行

北海道 頓別平野の開墾者 榎原民之助翁の生涯
大崎上島町と中頓別町との交流のかけ橋



大崎上島町東野小学校で、ふるさと伝承の読み語りを行っている安藤博子さん（元幼稚園長）が榎原民之助さんのお話をされ、令和3年度に小学3年生が総合的な学習の時間「町の宝人をさがそう」というテーマの中で取分け東野地区に関わりのある人物として浮上したことがきっかけとなり、榎原民之助さんの生涯や中頓別町との交流をまとめた「北海道頓別平野の開墾者榎民之助翁の生涯大崎上島町と中頓別町との交流の懸け橋」（世話人 木原武士さん、藤原保弘さん、福本正人さん）がまとめ、発行し、本町へ寄贈されました。数に限りがありますが、この機会に、手に取って大崎上島町との歴史を振り返ってみませんか。

お問い合わせ・配布場所

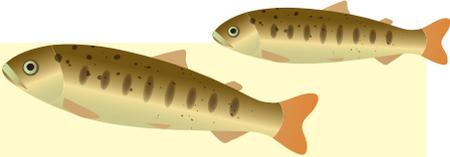
総務課政策経営室（01634-8-7671）

頓別川淡水魚水系生息魚に関する学習会の開催

当町を取り囲む豊かな自然も、わたしたちの生活も水の循環によって支えられています。この水の循環には豊かな森林と、生活や産業から出る廃棄物や汚水の適正処理が不可欠となっています。

美しい河川を維持するためにも、わたしたち一人一人が河川と生活の繋がりを学び、中頓別町の豊かな自然を守るために何ができるかを考えていく必要があります。

そこで、下記のとおり学習会を開催し、頓別川水系の現状や過去3年間の関連する諸調査結果を報告していただいたうえで、講師の方に講評していただき、現在の頓別川水系から今後河川について、考えるきっかけにさせていただきたいと考えています。

- | | | |
|---------|--|---|
| 表 | 題▶ 頓別川淡水魚水系生息魚に関する学習会 |  |
| 開催日時▶ | 令和4年10月28日（金）午後6時より | |
| 開催場所▶ | 中頓別町役場大会議室（予定） | |
| 調査報告者▶ | フィッシングガイドサービス TEKU-TEKU | ガイド 三浦毅さん |
| 講師▶ | 立石淑恵（たていしよしえ）さん
枝幸町教育委員会社会教育グループ「オホーツクミュージアムえさし」勤務
弘前大学農学部生命科学部及び同 大学院を修了後、枝幸町へ。 | |
| プロフィール▶ | 積極的に枝幸町内で老若男女問わず、植物・生物に対する学習会を開催する。 | |

お問い合わせ

申し込みは不要ですが、不明な点がありましたら、中頓別町総務課住民グループ環境衛生担当（TEL：01634-8-7660）までお問い合わせください。

社会保険料（国民年金保険料）控除証明書について

国民年金保険料は所得税法及び地方税法上、社会保険料控除としてその年の課税所得から控除されますが、控除の対象となるのは、令和4年中（令和4年1月1日から令和4年12月31日）に納められた保険料の全額です。（令和4年中に納められたものであれば過去の年度分の保険料や追納された保険料も控除の対象となります）

また、家族（配偶者や子）の負担すべき国民年金保険料を支払っている場合は、ご自分の保険料に加え、その保険料についても控除が受けられます。

本年中に納付した国民年金保険料について、社会保険料控除を受けるためには、年末調整や確定申告の際に保険料を支払った事を証明する書類の添付が必要になります。

日本年金機構から「社会保険料（国民年金保険料）控除証明書」が対象者宛てに発送されますので大切に保管し、年末調整や確定申告に使用してください。

送付スケジュール

発送時期は国民年金保険料を納付した時期によって異なります。

	発送時期	対象者
①	令和4年10月下旬から令和4年11月上旬にかけて順次発送	令和4年1月1日から令和4年9月30日までの間に国民年金保険料を納付した方
②	令和5年2月上旬	令和4年10月1日から令和4年12月31日までの間に国民年金保険料を納付した方 (①の対象者は除きます)

注意事項

- 控除証明書をなくした場合はねんきんネットや年金加入者ダイヤル、年金事務所にて再発行の手続きができます。
- 被用者年金（厚生年金保険、共済組合等）に加入している場合でも、令和4年中に国民年金保険料を1度でも納付した場合は日本年金機構から国民年金保険料についての控除証明書が届きます。なお、被用者年金（厚生年金保険、共済組合など）の保険料については、勤め先で控除額を算出の上市町村や税務署に届出するため、日本年金機構から被用者年金についての控除証明書を作成し送付することはありません。

詳しく知りたい時や、わからないことがあった時は、
稚内年金事務所 お客様相談室（0162-74-1000）
または日本年金機構ホームページをご覧ください。

お問い合わせ 住民グループ（01634-8-7660）